



第2学期終業

～楽しく充実した冬休みの生活を～

86日間あった長い2学期も、明日が最終日となります。with コロナ・after コロナの時代を迎えて、この2学期はコロナ禍以前のような落ち着いた学校教育活動を実施することができると思ってスタートしました。ところが、那須甲子青少年自然の家を利用して行う予定であった4年生の親子行事(森林学習)、5年生のセカンド・スクール、6年生の村内合同交流学習が相次いで中止・変更を余儀なくされました。また、インフルエンザの蔓延に伴う学年閉鎖もありました。保護者の皆様方には、その都度多大なるご心配・ご迷惑をおかけしてしまい、誠に申し訳なく思っております。しかし、どのような時でも常に温かいご理解とご支援を賜り、皆様のお力添えのおかげで学校教育活動が成り立っていることを深く感じた2学期でもありました。本当にありがとうございました。

何かとハプニングの多かった2学期でしたが、熊倉小学校の子ども達は、日々の学習や、学習発表会を始めとしたいろいろな学校行事に真剣に取り組み、心身共に大きく成長しました。明日、担任から渡される通知票をご覧くださいながら、この86日間のがんばりと成長を大いに褒めてあげてください。

さて、明日から1月8日(月)までは、例年よりちょっとだけ長い冬休みとなります。日本ならではの、またはこの地域ならではの「年越し文化」や「お正月文化」をたっぷりと味わいながら、子ども達にとって楽しく充実した冬休みとなることを心から願っております。



学校運営協議会コーナー

～学校運営協議会委員リレーコラム～

第7回は、学校運営協議会委員
須藤 正樹 様 です。

12月です。もうすぐクリスマス。そこで、クリスマスの豆知識を一つ。「なぜクリスマスプレゼントは、靴下に入れてもらうようになったのでしょうか。」

昔々、3人の娘を持つ、ある家族がおりました。その家族はとても貧しく、生活に困っていました。ある日、生活をするために家族の中で「1番目の娘を売り、2番目と3番目の娘をそれぞれ結婚させよう」という話がでていました。

娘を売りに出し、愛のない結婚をさせようとしていることを知った聖ニコラスが、家族を救うために窓から金貨を投げ込んだそうです。すると、聖ニコラスが投げた金貨は、娘の一人が暖炉の近くに干していた靴下に、ちょうど入ったのです。そして、家族はその金貨を見つけ、感謝し喜びました。その靴下に入ったお金のおかげで、家族は生活ができるようになり、3人の娘は幸せな結婚をすることができました。貧しい家族を救うために家へ投げ込んだ金貨が、たまたま靴下に入ったことが語り継がれサンタさんが靴下にプレゼントを入れるというようになったと言われています。

あと「なぜサンタクロースと呼ぶのか?」というと、聖ニコラスをオランダ語でいうとセント・ニコラウスとなりこれがなまってジンタクロースになって最後にサンタクロースという名前になったそうです。

最後にお願ひがあります。年が明けましたら、心を込め、「明けましておめでとうございます。」と笑顔で家族、友達に言ってください。

それでは皆さん、よいお年をお迎えください。

第8回は、遠藤 玉美 様(1月掲載)です。